

目標は具体化させる

目標は、  
はっきりしていればいるほど  
そこへ到達する

個性50% 仕事人50%

★個性は魅力★  
個性も大事にしながら、  
保健師(仕事人)としての 自  
分の顔を持つ

訪問場面で困ったこと

- ★訪問時、ケースの言葉に戸惑い、  
訪問後、相談する人によって意見が違い、  
振り回されている自分に気づいた
- ★必要としている制度から、もれてしまう人に  
どう対応したらいいのかわからない
- ★相手の生活をそのまま受けられるのが難しい

保健師の仕事は？①

自分から何かに気づいてもらう



その気づいたところを少しでも改善す  
ればよい方向へ向かうことを伝える

保健師の仕事は？②

- 相手の話をよくきくこと  
↓  
相手が自分の気持ちをまとめる  
↓  
相手が力を引き出していく

私の中での変化①

- ～新任4～6ヶ月の時の気持ち～  
目の前の事業にわけも分からず参加していた
- ～今の気持ち～  
自主学習会に参加し、国や県の動きをふまえ、  
保健師としての動きが少しずつ見えてきた

### 私の中での変化②

～新任当初の気持ち～

担当地区を受け持って、他の保健師だったら、もっと良い支援ができるのに…申し訳ない

～今の気持ち～

私の足りない分、できない分は、まわりに助けられて、みんなで支援している

### 同じ職場にプリセプターがいること

★タイムリーにアドバイスがもらえる

★いつでも動きを見守っててもらい、いいタイミングで助言してもらえる

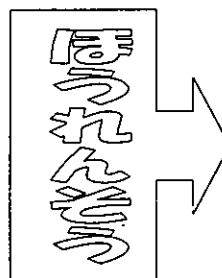
★変化をみつけて、ほめてもらえる

### プログラムをとおして

- 安心して、楽しく仕事ができるようになった
- 立ち止まって、これまでをふりかえることで、自分を客観的にみることができた

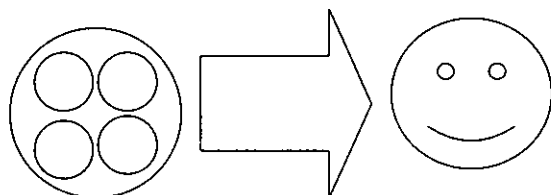
できるようになったこと、まだできないこと、新たにでてきた課題を明らかにさせ、次の目標を立てて向かっていける

### 新任者として留意したこと



- ★報告
- ★連絡
- ★相談

### 課題



### 特定町村保健師研修をとおして

【目的】特定町村の保健師が一同に介し、離島僻地における保健活動の展開について  
実践報告や情報交換を行うことにより、  
地域の実情に応じた活動の推進に資する



みんなで、エネルギーをもらうための研修です。  
明日からまた、みんなで、元気ががんばりましょう。

## 新任者遠隔継続教育プログラムの 実践報告

～中堅指導者の立場  
から～

城辺町保健師 根間京子

## プログラムの概要

### 1. 研究目的

行政における新任保健師の継続教育プログラムを開発し、その方法と内容の評価を行い、新任保健師の継続教育支援システムを構築することである……※現在進行形です

### 2. 背景

保健師の教育カリキュラムの変化や多様化で、卒後の教育が重要になっていること

## 研究の参加組織と役割(沖縄県)

- 琉球大学…研修の実施、スーパーバイザー、まとめ
- 保健所…大学と町との調整、管理者、研修の支援
- 本庁…研修の支援
- 城辺町…教育プログラムの実施、研修参加他にも、粟国村・北谷町で実施されています

## 実施体制

- 新任保健師…1年目～5年目
- 中堅指導者…6年目～10年目
- 管理者

## 新任者プログラムの目的

- 対人支援能力の育成
- 保健師としてのマインドの育成
- 自己学習能力の育成
- 思考分析判断能力の育成

## 教育プログラムの特徴

- 対象が新任期に限定されている
- 対人支援能力の質向上に焦点を絞っている
- 研修と個別教育を組み合わせている
- 遠隔通信システムを活用している
- 中堅者や管理者も含めた総合的なものである
- 町・県・保健所・大学と、多層の教育システムを構築すること

### 城辺町の概要

- 人口 約7500人
- 地理 平良市(人口3万5千人)と同じくらいの面積があり、範囲が広い
- 保健師数 4人。平成8年から15年の7年間で、7人の保健師がやめ、入れ替わりが多い
- 担当課 保健課。庁舎と離れている。保健師は全員保健センターにいる。センターでは補佐、事務、栄養士を合わせて12名勤務。課全体では22名である。

### 城辺町でのとりくみ・準備期(H15. 3~)

- 職員への説明
- テレビ電話のとりつけ
- デジタルビデオカメラの貸与
- 実施にあたり、保健所の現任教育担当と、保健所課長と中堅指導者、新任者で話し合いをもち、役割を明確にした。

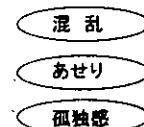


### 城辺町でのとりくみ・実施期(H15. 6~)

- 新任者 2名 前川・鈴木
- 中堅指導者 1名 横間
- 管理者 宮古福祉保健所地域保健課長
- テレビ電話の活用 週1回環犬の宇座先生と連絡を取り合う
- 定期的なレポートの提出
- 事例検討会への参加
- 研修を受ける 中堅用・新任用

### 指導するにあたり...私の新任時代

- 何がわからないか分からない
- 何に対しても自信がもてない。健康教育・家庭訪問・まして困難事例なんて逃げ出したい。何年たってもこのままなのか...
- これまでの臨床経験が生かされない
- 問題が共有できない。役場の中で孤独



私はこの仕事向いてない。いなくてもいいんじゃないか...

### 新任者を指導するうえで留意した事

- とにかく話を聴く
- できないのも、悩むのもあたりまえ、新任者を責めない
- 勉強会・ケースカンファレンス・研修・他機関への顔つなぎ等々、質向上のため今できる限りの事をする
- 中堅者自身が悩んだときは、すぐに誰かに相談する...管理者がいることは重要だった

### プログラムの良い点

- 中堅者が同じ職場で働く先輩保健師であり、リアルタイムで、細かな点まで相談が受けられる
- 目標を思考力を高めることや、対人支援能力の向上に絞っているのが、指導しやすい
- 定期的な記録物や、事例検討会、研修などがプログラムに沿って行われており、段階を追って新任者の成長が図られる
- 大学や管内保健所、県など、相談する機関が多い

### 実施しての課題

- テレビ電話やデジタルビデオ等のITが十分に使いこなせない
- 中堅者への負担が大きい
- 新任者と中堅の相性など、スムーズに実施する条件が人に左右されやすい

### 中堅指導者としてプログラムをどう思うか

- 条件が整うなら(先輩保健師がいるなら)、実施したほうが良い
- 町村によっては、まだ保健師1人体制や新人2人体制もある。そういう所へは、今後も保健所の新任教育が継続されるだろうが、できるだけこのプログラムに沿った方法が良いのではないかと

### ここが変わりました

- 中堅者が変わったこと  
新任・中堅・管理者の3者がいることで、自分の今の役割、過去の自分、これからの自分の姿が見えた。後輩育成はあたりまえの事だと思った。
- 新任者が変わったこと  
保健師としての仕事に自信が付き、楽しく業務を行うようになっている

### 新任者のみなさんへ

●みなさんは良く頑張っています。



ひとりで抱えないでね

## 【研究組織】

- ◎主任研究者◎ 佐伯 和子 (金沢大学医学部保健学科 教授)
- ◎分担研究者◎ 宇座 美代子 (琉球大学医学部保健学科 教授)
- 和泉 比佐子 (札幌医科大学保健医療学部看護学科 講師)
- 大柳 俊夫 (札幌医科大学保健医療学部一般教育科 助教授)
- ◎研究協力者◎ 大野 昌美 (金沢大学医学部保健学科 助手)
- 大倉 美佳 (金沢大学医学部保健学科 助手)
- 横溝 輝美 (札幌医科大学保健医療学部看護学科 助手)
- 船附 美奈子 (琉球大学医学部保健学科 助手)

## 【地域別研究協力者】

- ◆ 北海道 ◆ 蛭澤 美保子 (北海道留萌保健所 企画総務課 保健推進係長)
- 水野 芳子 (北海道留萌保健所 企画総務課保健推進係 主任保健師)
- 堀井 礼子 (北海道稚内保健所 企画総務課 保健推進係長)
- ◆ 石川県 ◆ 相木 直美 (石川県健康福祉部健康推進課 保健計画係長)
- 塚田 久恵 (南加賀保健福祉センター 企画調整課 専門員)
- 平田 直美 (能登中部保健福祉センター 企画調整課 主査)
- 木下 浩美 (能登北部保健福祉センター 企画調整課 専門員)
- 川崎 外美子 (金沢市駅西福祉保健センター 所長補佐)
- 小西 美知子 (金沢市泉野福祉保健センター 所長補佐)
- 四方 雅代 (石川現任教育研究会)
- ◆ 沖縄県 ◆ 比屋根キヨ子 (沖縄県福祉保健部 保健指導監)
- 池原 和子 (沖縄県福祉保健部 主任技師)
- 古謝 安子 (琉球大学医学部保健学科 講師)
- 小笹 美子 (琉球大学医学部保健学科 講師)
- 盛島 幸子 (沖縄県宮古福祉保健所 地域保健課長)
- 根間 京子 (城辺町役場保健課 保健師)
- 前川 美奈代 (城辺町役場保健課 保健師)
- 鈴木 美香 (元城辺町役場保健課 保健師)

## 研究成果の刊行に関する一覧表

### ■書籍

なし

### ■雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
佐伯和子, 和泉比佐子, 宇座美代子, 高崎郁恵	行政機関に働く保健師の専門職務遂行能力の測定用具の開発	日本地域看護学会誌	6巻1号	32-39	2003
和泉比佐子, 佐伯和子, 大柳俊夫, 宇座美代子	テレビ会議システムを用いたコンサルテーション	公衆衛生情報	33巻12号	45-47	2003
佐伯和子	ITを活用したこれからの現任教育のあり方と課題	公衆衛生情報	34巻1号	42-44	2004
佐伯和子, 竹邦子, 畦地和子, 中谷弘美	職場に「スーパーバイズ」のシステムをつくらう！大学からのスタッフ支援の取り組みをとおりして	保健師ジャーナル	60巻2号	124-129	2004
大野昌美, 佐伯和子, 和泉比佐子, 大倉美佳, 宇座美代子, 大柳俊夫	行政機関に勤務する中堅保健師の継続教育に対する認識	北陸公衆衛生学雑誌	30巻2号	印刷中	2004